

『正法眼蔵』成立の諸問題 (六)

——真福寺文庫所蔵『大悟』巻草稿本の紹介——

河村孝道

(一) はじめに

『正法眼蔵』には、道元禪師撰述の原初より種々の異本が存在する。異本には各巻の本文・内容を異にするもの、巻目を異にするもの、列次番号を異にするもの、示衆年時処を異にするもの等、多方面に亘っている。これが謄写伝播するに当っては更に多くの異本を発生せしむるに至る。従って謄写本の場合、その異本の性格・原因が、その依拠した原本の系統・性格・内容に基づいたものであるのか、或は謄写者それ自身の書写上の誤謬に拠るものか、または恣意に依る意識的改変に出づるものであるかを判憑する事は、異本に対処する際の基本である。『正法眼蔵』の場合、その異点の性格がその底本及び原本に基づくものである時、その異本の存在は重要な意味を有ってくる。即ちそれは草案本・修訂本、旧草・新草という『正法眼蔵』の著述・成立の時点にまで関って

くるからである。

『正法眼蔵帰依三宝』奥書の識語に於いて懷奘は、それが「建長七年乙卯夏安居日、以先師之御草本一書写畢」と述べ、更に語を添えて

未_レ及_ニ中書清書等、定御再治之時有_ニ添削_一歟、於_レ今不可_レ叶_ニ其儀_一、仍御草如_レ此云（長円寺本奥書）

と述べ、また『深信因果』巻にも

彼御本奥書云、

建長七年乙卯夏安居日、以御草案一書写之、未_レ及_ニ中書清書、定有_ニ可_レ再治_一事也、雖_レ然書_ニ写_一之、懷奘

とあり、これらの事から、『正法眼蔵』に草案本、草案を再治した中書本、中書本を補訂推敲した清書本とがある事を知り得る。そして事実私達は、遺こされた数少い道元禪師の真蹟本の中に、或いは今日に伝持される諸種の伝写本の中に、草案・修訂再治本の系統を見る事が出来る。そして草案・修

訂再治の対比を通して、そこに『正法眼蔵』の論理的表現の広がりや深まり、換言すれば道元禅師の宗教的境涯の円熟しゆく深まりを見る事が出来る。

いま『正法眼蔵』の奥書を通して草案・修訂再治、再示衆等の明記されている巻目を挙げれば、「仏性・心不可得・別稿本心不可得・大悟・坐禅箴・行持・観音・都機・谿声山色・仏向上事・別種本仏向上事・伝衣・仏教・春秋・嗣書・諸法実相・仏道・別種本仏道・洗面・面授・梅華・三昧王三昧・転法輪・出家・袈裟功德・発菩提心・帰依三宝・深信因果・三時業・別種本三時業・四馬・四禅比丘・八大人覺」等がある。就中、仏性・心不可得・行持^下・仏向上事・嗣書・諸法実相・洗面・三時業の諸巻、及び弁道話には草案本または草案本に近い謄写本が現存していて、『正法眼蔵』の著述・成立に関する貴重な研究資料となっている。再治修訂の跡方を辿る事に依って、道元禅師の修訂の意図・思想・表現の展開の様相を如実に知る事が出来る。但し草案・修訂、示衆・再示衆の関係が、例えば『普勸坐禅儀』に於いて、天福清書本と流布本とが宋朝禅の残滓の未払拭・払拭の相違性にあるとする説や、北越入山による思想的変容によるとする説の如きものではなく、いずれも「仏正法」を基底とせる同一視点(同時性)上に於ける説相表顕の深まりであり、展開であると見られる。再示・再再示衆による増添文もまた然りである。

る。この事は右に挙げた各巻の草案・再治本の本文内容の対照を通して結論し得る。従って『正法眼蔵』に草案本・修訂本の存する以上、出来得る限りこれを蒐集して『正法眼蔵』撰述、成立の全容を明かすことは『正法眼蔵』研究、道元禅師研究の基礎的研究作業として必須であると信ずる。その意味に於いて、つとにこの方面にも関心を寄せているものであるが、『嗣書』『諸法実相』の各巻に於いて、その一部の蒐集を果す事が出来たものの(「曹洞宗報」昭52・53年一部紹介・「道元禅師真蹟関係資料集」近刊)容易な作業ではない。併し時として思わぬ機縁に依りその方面の情報や資料の提供を得る事がある。本稿に紹介せんとする『大悟』古写本一卷の発見もまた、そうした機縁に恵ぐまれた上での報告である。

今年(昭54年)六月頃であったか、本学の石井修道氏より大州文庫(真福寺文庫)の細目カード中に「大悟」と題する書名があり、或は『正法眼蔵』中の「大悟」巻であるかも知れないので一度調査してみるように、との教示を受けた。その後、伊藤隆寿氏よりも同様の提言を得た。周知の如く、伊藤氏は早くより三大文庫の一と言われる大州文庫(名古屋市・真言宗智山派・真福寺宝生院)所蔵の三論宗関係資料の解明と紹介に意欲を注いでおられ、石井氏もまた伊藤氏の紹介を受けて同文庫所蔵の禅籍資料の調査に当たられ、古写本『壇経』についての緻密な紹介・論考を発表されている(仏教学

部論集・一〇号所収)。両先生のたゆみない研究意欲と学問的関心が、極めて貴重な『正法眼蔵』草案本発見の機縁を成熟して頂いたことに対し、心より謝意を表するものである。大州文庫については、既に伊藤・石井両氏に依り紹介されて



(真福寺本「大悟」巻初部分)

いるので、本稿では再説する事を避け、以下には『大悟』の形態・内容、修訂再治本『大悟』との本文対照を試み、草案・修訂両本の異同・性格を明かし、以て『正法眼蔵大悟』の成立過程を知る手がかりとしたい。尚、黒板勝美氏に依り昭和十年より十一年にかけて、同文庫の中から善本に類する目録「真福寺善本目録」正統二篇が刊行され、計八百二十一点が紹介されて以来、学界では「真福寺文庫」「真福寺本」と呼称されているが、本稿でもその呼称に従っておきたい。

(二) 真福寺本『大悟』の形態

真福寺文庫所蔵の書冊は、古くより一万五千余巻の襲蔵とされ、その殆どは鎌倉から南北朝にかけての古写本類が中心である。本書『大悟』は、私見では鎌倉末期より南北朝頃の古写本と思われる。同文庫、函第七拾一合第二四号として収蔵されている。その形態概要は次の如くである。

- 一、帖数 一帖
- 一、装幀 粘葉装
- 一、紙質 楮紙
- 一、寸法 縦一四・六糎、横一三・〇糎
- 一、紙数 表紙共三十四紙
- 一、行数 一紙六行(真筆本ノ書写形式ヲ踏襲シタモノ)
- 一、字数 一行十四字(二十二字)

一、書写年時 鎌倉末期～南北朝頃

一、書写者 不明

一、外題 大悟

一、内題 大悟

一、識語 内題「大悟」の題下ニ

「觀音導利興聖寶林寺」トアリ

一、本文 片仮名書キ、古体仮名ヲ用ウ

一、後題 ナシ

一、奥書 ナシ

一、校合 「見セ消チ」アリ

① 該本は蠹損甚だしく、曾て昭和十年頃整理の際にか補修されて薄紙による裏打がされたが、現在ではそれにも蠹蝕が見られ、本文判読に當って解読不可能な箇所が諸所に存する。

② 本文語句には、往々右註に振り仮名、左註にその語句の訓訳が註記されており、その音読は中国語音の場合もある。

(例) 平展 ヒムヂム 抛却 ハウイチャ 投子 ヤムシ

祇対 シツイ 辨究 ハム 義青 ヤムシ

搜尋 ソウ 換面 フム

潺々 サクル 語 カヘテ 傍様 ナヘテ

水ノ流コエ フタアルヘー

霹靂 ヘーレス 困 シツカニ

行履 アムリ 兎徑 ミケイ

辞セス イナフ也 官官 鳥鳴

ト度 マクタク

③ 古体・略体仮名の使用。

子(ネ) へ(マ) ー(キ) 早(ホ) ノ(シテ) ん(ナリ)

④ 表紙中央には「ㇿ」の梵字が書かれている。真福寺本『大悟』の形態は、以上の如きものである。

(三) 草案本(真福寺本)と流布本の性格

① 『正法眼蔵大悟』の撰述は、道元禪師が天福元年(一二三三)に山城宇治に觀音導利院興聖宝林寺を開創し、本格的に「正伝の仏法」を挙揚しつつあった仁治三年(一二四二)正月二十八日、禪師四十三歳、興聖寺に於いての示衆であった。この『大悟』は、後に北越吉峰寺入山中の寛元二年(一二四四)正月二十七日に書き改めて再示衆されている。曾て深草安養院時代の寛喜三年(一二三一)撰述の『弁道話』に於いてしばらく正法「弘通のこころを放下せん激揚のときをまつゆゑに」と述べられてより、吾国初の高清規に則った広牀の僧堂の成った嘉禎二年(一二三六)以後、まさに激揚のとき至れりと興聖寺僧堂を本拠として正法弘通宣揚の意欲的

な撰述示衆が行われている。正法荷負の嗣懷瑩・詮慧等の門人を得、“普勸”の具体的実践道場としての僧堂を得て、それはひたすらなる正法弘通のほかの何ものでもなかった。『大悟』はそのような中で示衆されたものである。尤も『大悟』示衆に先立つ仁治二年春には、日本達摩宗の覚晏門下、懷鑑・義介・義尹・義演・義準等が興聖寺へ集団帰投している処から、彼等の関心する“大悟”“見性”の本義を説示したものと考えられなくはない。『仏性』も仁治二年十月の示衆である。併しながら社会的・教界史的事件への関心は有ったにせよ、その事件が直ちに、『正法眼蔵』の各巻撰述の動機となって示衆されているとは、こと『正法眼蔵』の場合には見られないのではないか。世間の強牽付会の諸論は暫く措いて、『正法眼蔵』撰述示衆の原意に眼を向けてみる時、それがひたぶるなる“正法弘通”に依る撰述の展開と素直に受取ってよいのではないか。『大悟』一卷は、如浄を得て豁開された“正法眼”に依り、新たに見直された仏法の立場を闡明したものと言えるであろう。即ち、“仏祖の大道”は“大悟なり”とし、大悟は“仏祖の家常”であり、その故に、

仏祖は大悟の辺際を跳出し、大悟は仏祖より向上に跳出する面目なり（流布本）

とその一法究尽の修証のありようを述べ、更に大悟が不染汚の修証として無限に働きゆく相を「大悟現成し、不悟至道

し、省悟・弄悟し、失悟・放行す」と述べ、その立場から新なる眼で古則を拈提挙揚されたものである。

(2)草案本（興聖寺示衆本）と再治本（吉峰寺書示本）の対照を通して、先ず①草案本が、“大悟”の論旨をつぶつと書き列ね（一見提唱語の成文化風）、その為に、②“大悟”に関する古人の話則が多く引用されているのに対して、次の古則引用対照により、再治本の推敲の次第を知る事が出来る。

△引用祖師名▽

（草案本）

（再治本）

①臨済不悟者難得

臨済不悟者難得

②曹溪大悟不拘小節

③永嘉真覺大象不遊

④華嚴休靜破鏡不重照

華嚴休靜破鏡不重照

⑤西天經師論師ノ家門

⑥永嘉真覺莫謗如来

⑦竜牙道無中得悟

⑧二祖礼拝依位而立

⑨青原聖諦不為

⑩南岳説似一物即不中

⑪雪山ノ大悟

雪山ノ大悟

⑫大宋国諸山ノ杜撰ノヤカラ

⑬雲門三種人

⑭ 黄竜慧南花綻柳開

⑮ 黄竜慧南誠語

⑯ 投子問浮山外道問仏話

⑰ 天童如浄身心脱落話

⑱ 京兆米胡問仰山還仮悟否

京兆米胡問仰山還仮悟否

⑲ 仰山悟即不無

△仰山名ハ無ク語句ノミ引用▽

これに対して③吉峰寺再治書示本は、草案本の論述次第に準拠しながら、古人の引用句及びつづつと書き連ね詳述した拈提を抹削整理すると共に、文章表現の推敲・論述の簡潔化を図り、臨済と華嚴休静との二人の大悟論を中心に「大悟」の真義を闡明すると共に、更に自らの宗眼より大悟一現の現成公案の世界を委説して、以て「仏々の大道」としての大悟觀を述べている。尚、臨済語段に於いて、草案本に見られなかった臨済への道元禪師の設問が、再治本に於いて新たに提起されている箇所が存する。寛元元年(一二四三)北越入山の前後に道元禪師、或は正法眼藏に思想的変容を見んとする世間の論線上に当てはめれば、この両本の立場はその証明の一役を荷負う事となろうが、再治書示本(吉峰示衆本)の臨済語に対する道元禪師の拈提態度を仔細に検点すれば、それが強い否定的なものでない事が見取される。短絡的な思想変容論は改めて吟味してみる必要を感じずるものである。

なお両本の大悟論の展開の性格については、別に『正法眼

藏大悟』論として改めて論考すべく考えているので、内容的論述は以上に留めておき、以下に、草案本『大悟』の全文を復刻紹介しておきたい。復刻紹介に当っては、次の諸点に留意した。

① 草案本より再治本への推敲添削過程を知る為に、上段に草案本(真福寺本)、中段に『正法眼藏聞書抄』が依用せる古本正法眼藏の本文、及びこれを補填する為に石川県竜門寺所蔵の古写本75卷正法眼藏本文とを以て対照せしめた。また下段の脚注は、中段の聞書本の本文に対して正法眼藏諸種古写本との本文の校合注記をなしたものである。

② 校異諸本中、略号は次の諸本を示す。

聞Ⅱ聞書本(75卷)・竜Ⅱ竜門寺本(75卷本・石川県)・乾Ⅱ乾坤院本(75卷本・愛知県)・耕Ⅱ耕雲寺本(75卷本・新潟県)・長Ⅱ長円寺本(84卷本・愛知県)・瑠Ⅱ瑠璃光寺本(60卷系75卷本・山口県)・洞Ⅱ洞雲寺本(60卷本・広島県)・普Ⅱ普門院本(60卷本・大分県泉福寺塔頭旧蔵本)・多Ⅱ多福庵本(60卷本・京都妙心寺塔頭靈雲院所蔵)

③ 校異注記に当っては、同一表現の場合、「云・イハク・イワク・曰」「ナリ・也」「ヲ、ク・オ、ク・ヲオク」「知ル・シル」等の場合は一一注記しなかった。詳しくは『駒大仏教学部紀要』所収「古本75卷正法眼藏の研究」△正法眼

藏聞書抄V依用の本文復原化の試み―の凡例参照。

④真福寺本に於いて、本文中の「/」斜線は原本の一行毎の本文改行を示す。^ V印は蠹損部分又はそれによる不分明な読みであることを示す。(1オ)(2ウ)等の表記はそれ

ぞれ原本「一枚ノ表」「二枚ノ裏」の意味を略記したもの。
⑤再治本に於いて、本文は『聞書抄』本を底本とし、その際「レ」鉤点は『聞書』本文を示す。また補足本文は竜門寺本に依り、これを^ V印で示した。

真福寺本^興聖寺示衆草案本V

「聞書抄」依用本・龍門寺本^吉峰寺書示再治本V

諸本校異

大悟

觀音導利興聖寶林寺

※
正法眼藏第十 大悟

※開本・抄本「正法眼藏」ノ總題號ヲ省略シ「大悟第十」トノミ記ス。今ハ龍本ソノ他ノ表記ニ順ウ。(乾)(耕)(長)(増)(洞)(普)同ジ。正本ハ散佚シ、徳本ハ焼失シテ本巻ヲ闕ク。尚、龍本・乾本ニハ「擧古」有リ

△龍本擧古V
「臨濟院慧照大師云大唐國裡不見一人不悟者難得・華嚴寺休靜因僧問大悟底人却迷時如何師云破鏡一・米胡和尚令僧問仰山今時人還假悟否」

△乾本擧古V第二册卷初
「十 大悟 付臨濟云不悟者難得・付花嚴靜大悟破鏡問答・付米胡今時人二頭」

佛々ノ大道ツタハルコト綿蜜ナリ、功業現ノ成ナルコ

佛佛ノ大道ツタハレテ綿密ナリ、祖祖ノ功業アラハレ

綿密―左註、ツラナリキヒシ(普)密―蜜(乾)(耕)(長)

ト平展ナリ、コノユヘニ大悟アリ、不悟アリ、省悟

テ平展ナリ、コノユヘニ大悟現成シ、不悟至道シ、省

平展―右註、ヘイセン(普)・左註、タイラクノヘリ(増)(普)、又ハアキラカナル義ナリ(増)

アリ、失悟アリ、トモニコレノ佛祖アルトキハ抛却

悟・弄悟シ、失悟・放行ス、コレ佛祖家・常ナリ、擧拈

省悟弄悟―省悟リ弄悟ヲ(増)行―右註、アン(多)

シ、アルトキハ把定スノトコロナリ、抛却オヨヒ把定

スル使得十二時アリ、抛却スル被使十二時アリ、

家常―左註、イエノナライナリ(増)使得―石註、ステ(多)

ニアラハスV、(1オ)

被使―左註、ツカワル、(増)

泥團^{ツチグミ}ノ形段モ現成^(ママ・以下同ジ)セリ、シルヘシ大悟ハヨリ^ノ／諸佛
諸祖ハ恁麼來ナリ、ユヘニ大悟ハ^ノ／佛祖ノ邊際ニ
カ、ハレルニアラサルナリ^ノ、

シカ／アルニ、アルイハ生知アリトイフ、イハユル生
シテ／生ヲシルナリ、

學而知者アリトイフ、學シテ生ヲシルナリ^ノ、

佛智者アリトイフ、

ハサラニ^ノ此關^ノ候子ヲ跳出スル弄泥團^ノモアリ、弄精魂^ノ
モアリ、大悟ヨリ佛祖必恁麼現成スル參學ヲ究竟スト[※]
云ヘドモ、大悟ノ渾悟ヲ佛祖トセルニハアラズ、佛祖
ノ渾佛祖ヲ渾大悟ナリトニハアラザルナリ、佛祖ハ大
悟ノ邊際ヲ跳出シ、大悟ハ佛祖ヨリ向上ニ跳出スル面
目ナリ、
シカアルニ人根^ノニ多般アリ、イハク生知^ノ、コレハ生ジ
テ生ヲ透脱スルナリ、イハユルハ生ノ初中後際^ノニ體究^ノ
ナリ、
ハイハク^ノ、學而知^ノ、コレハ學シテ自己ヲ究竟ス、イ
ハユルハ學ノ皮肉骨髓ヲ體究スルナリ、
イハク佛知者アリ、是ハ生知ニアラズ、學知ニアラ
ズ、自他ノ際ヲ超越シテ、遮裏ニ無端ナリ、自他知ニ
無拘ナリ、

「此」ナシ(増)
關一開(龍)
板一板(龍)(乾)(耕)(洞)
※諸本「カナラス」ニ作ル
※究竟スト云ヘトモ一究竟渾は全鉢也
(洞)
渾一右註、ウン(増) ●多本「渾」ノ
下「大イ」
「ニ」ナシ(乾)
サル一す(耕)

生知一左註、ウマル、ヨリモノシリタ
ル(増)
シテ一死ノハシテイニ^ノ(多)
體究一左註、サトリキワム(増)

シテ一者ノハシテイニ^ノ(多)

知一智(耕)

裏一裡(増)(多)
拘一右註、コウ(龍)(長)(増)・右
註、カ、ハリ(龍)・左註、カ、ハル
(増) ●拘(洞)

無(1ウ)ノ師智者アリトイフトモ、三舉ニ回去ス
ルノ、行履ノ條ニナリ、

生知アレハ生悟アルヘシノ、

佛祖ステニ調御丈夫トアルニ、ミナ生悟ノヲ拈來セ

ルカユヘニ、學道大悟スル生悟ノナルヘシ、學悟スル

生悟ナルヘシ、學悟ナルハカノユヘニイマ三界ヲ舉

シテ大悟シ、四大ハヲ舉(2オ)ノシテ大悟トシ、

諸佛ヲ舉シテ大悟ヘシノ、諸法舉シテ大悟シ、諸緣

ヲ舉シヘテノ大悟シキタレルコト、イマスナハチ正

イハク無師知者アリ、善知識ニヨラズ、經卷ニヨラ
ズ、性ニヨラズ、相ニヨラズ、自ヲ撥轉セズ、他ヲ回
互セザレドモ、露堂ナリ、コレヲノ數般ヒトツヲ利
ト認ジ、フタツヲ鈍ト認ゼザルナリ、多般トモニ多般
ノ功業ヲ現成スルナリ、

ハシカアレバ、イヅレノ情無情カ生知ニ非ザラムト
參學スベシ、生知アレバ生悟アリ、生證明アリ、生修
行アリ、

ハシカアレバ、佛祖ステニ調御丈夫ナル、是ヲ生悟

ト稱シ來レリ、悟ヲ拈來セル生ナルユヘニ如此、參飽

大悟スル生悟ナルベシ、拈悟ノ學ナルユヘニ如此、シ

カアレバ則三界ヲ拈ジテ大悟ス、百草ヲ拈ジテ大悟

ス、四大ハヲ拈ジテ大悟ヘス、佛祖ハヲ拈ジテ大

悟ス、公按ヲ拈ジテ大悟ス、皆トモニ大悟ヲ拈來シ

「者」ナシ(耕)

ヨ一ア(増)

セス一スル(龍)

回互一右註、ウイコ、左註、タカヒメ
クル(増)

數般一左註、アマタノシナ(増)

①ル一ルカ(龍)(耕)(長)(増)(多)

(洞)・ル一リカ・右註、ルカ敷(乾)・
③ル一ルカ(耕)(洞)

②如此一カクノゴトシ(龍)(乾)(耕)
(洞)・カクノゴトク(増)・④カクノ
ゴトシ(増)(洞)

※諸本「スナハチ」ニ作ル

※多本「佛祖ヲ拈ジテ大悟スイニ」ト記
ス

按一案(乾)(長)(多)

※多本「ミナトモニニ」ト記ス

當恁麼／時ナリ、

コノユヘニ、臨濟院ノ慧照大師イ／ハク、盡大地覓ニ
一人トシテ不悟者難／得、

シカレハ盡地ニアラユルハ、不悟者ニハ(2ウ)／ア
ラサルヘシ、

悟ヲ齊限トセムトモカラハ、^{フヤム}休歇／スヘシ、悟コレ齊
限ニアラサルカユヘニ、不悟者／カナラスシモ悟者ニ
アラス、

テ、サラニ大悟スルナリ、ソノ正當恁麼時ハ而今ナ
リ、

臨濟院慧照大師云、大唐國裏^{モトムルニ}覓一人不悟者難得、

慧—恵(耕)

今慧照大師ノ道取スル所、正脈シキタレル皮肉骨髓ナ

慧—恵(耕)

リ、不是アルベカラズ、大唐國裏ト云ハ、自己眼睛裏

不足—左註、ヨカラサルコト(瑠)
大—太(多)
裏—裡(瑠)(多)

ナリ、盡界ニカカハレズ、塵刹ニトドマラズ、遮裏ニ^{シヤリ}

裏—裡(瑠)(多)

不悟者ノ一人ヲモトムルニ難得ナリ、自己ノ昨自己モ^{サラ}

不悟者ニアラズ、他己ノ今自己モ不悟者ニアラズ、山

人水人ノ古今モトメテ不悟ヲ要スルニ、イマダエザル

ベシ、

學人如此臨濟ノ道ヲ參學セム、虛度光陰ナルベカラ

※諸本「カクノコトク」ニ作ル
光陰—左註、ヒルヨル(瑠)(普)

ズ、

悟ノウヘニモサ／ラニ進一步スルニ、朝到西天暮到唐
土アル／ナリ、十聖三賢・等覺妙覺等ハ、ヒトヘニ／
待悟爲則ナルノミナリ、カレラニ悟ナシト(3オ)／
イハス、待悟スルノミナリ、シルヘシ盡地不悟／者ナ
キカユヘニ、待悟ハ齊限ナルノミナリ、ハ待／悟ノ齊
限ナル、待悟滯累スルコトヲ辭／セストイヘトモ、待
悟ニ親切ナラス、ヲホソ／大悟ハ不拘小節ナリ、

曹谿ノイハク、大／悟ハ不拘小節、

又永嘉眞覺大師イ(3ウ)／イハク、大象ハ不遊於兔

經ト、大悟不拘於／小節、

イハユル小節ハ報化佛頭ナリ、等覺／妙覺・始覺本

覺・有覺無覺等ナリ、法身／有病・法身無病等ナリ、

佛向上佛邊求／等ナリ、無始無終・有始有終等ナリ／、

スナハチ大悟ナリトイフニアラス、

シカモ如此ナリト云ヘドモ、サラニ祖宗ノ懷業ヲ參學
スベシ、イハク、暫臨濟ニ問スベシ、不悟者難得ノミ
ヲ知テ、悟者難得ヲ不知ハ未足爲是ナリ、不悟者難得
ヲモ參究セルト難云ナリ、タトヒ一人ノ不悟者ヲ覓ニ
ハ難得ナリトモ、半人ノ不悟者アリテ面目雍容魏魏堂
堂ナル相見シキタルヤイマダシヤ、

※諸本「カクノコトク」ニ作ル
懷業―右註、クワイキヨウ・左註、ア
リサマノ義(瑠・懷―ハ德イニ)(多)
※「シ」ノ下、抄本「是ハ方丈御詞ナ
リ」ノ割註アリ
※諸本「シリテ」ニ作ル
①※諸本「シラスバ」ニ作ル●「ハ」
ナシ(長)
未足爲是―左註、ヨシトスルニタラス
(瑠)
是―足(耕)●セル―セス(瑠)
②※諸本「イヒカタシ」ニ作ル
※諸本「モトムル」ニ作ル
「ノ」ナシ(耕)
雍容魏魏堂堂―左註、コ、チヨケナ
リ、自在ナリ、イシケナルコトナリ
(瑠)
「シ」ナシ(耕)

シ、

席ナルベシ、

△イハユル▽大悟底人ハ、モトヨリ大悟ナリトニハア

ラズ、餘外ニ大悟シテタクハフルニアラズ、大悟ハ公

界ニヲケルヲ、末上ノ老年相見スルニアラズ、自己ヨ

リ強爲シテ牽挽出來スルニアラザレドモ、カナラズ大

悟スルナリ、△不迷ナルヲ大悟トスルニアラズ▽、

へ大悟ノ種草ノ爲ニ、ハジメテ迷者トナラムト擬スベ

キニモアラズ、大悟人サラニ大悟ス、大迷人サラニ

大悟ス、大悟人アルガ如ク大悟佛アリ、大悟地水火風

空アリ、大悟露柱燈樓アリ、イマハ大悟底人ト問取ス

ルナリ、

シカアルニ、大悟／底人却迷時如何ト問取スルニ、華

嚴キ／ラハス、叢林ワラハヌ、スナハチ問フヘキヲ／

問シ、ナラヒキタレルヲ露膽スルナルヘシ、コレヲ／

底人―右註、チニシ(増)

「大悟ハ」ノ三字ナシ(増)

「年」ノ下「ニ」(龍)(乾)(耕)(長)

「相見スル」ノ四字ナシ(増)

強―右註、キヤ(龍)・右註、カウイ・
左註、シイテ(増)

牽挽―右註、ケンハン(龍)・ケンメン
(増)・左註、ヒク(龍)

擬―左註、ナスラウ(増)

※耕本「人」ト見セ消チノ註記アリ

露柱燈樓―燈籠露柱(多)

樓―籠(龍)(乾)(長)(増)(洞)

取―處(耕)

取・取―處(耕)

叢席―右註、寺名ナリ(増)

勲業―左註、クトクナリ(増)

ナルベシ―ナルハナラヘキナリ(長)
ヘシ―ヘキナリ(龍)(乾)(耕)(増)
(多)(洞)

(5ウ) モテ參究スルニ、佛々祖々ノ家風道業ヲハ／、

大悟底人却迷ヲ單傳ノ懷業トセリ／、

イマ西天ヨリ傳來セルト自稱スル經師論／師ノ立セル

家門ニハ、大悟大覺却迷トハ／イワス、大悟大覺ノ前

程、イマタソノ落處／ノハ／^テニナルヲシラス、ユヘ

ニ大迷ノ以前ハ^ニ／(6オ)／ナシ、大悟ノヲハリヲ

シラス、大迷ノハシメヲ／シラサルカユヘニ、大悟ヲ

モシラス、大迷ヲモ／シラサルナリ、ユヘニソコハク

ノ謗法トナル／、

永嘉イハク、欲得不招世間業／莫謗如來正法輪ナ

リ、經師論師等、ミタ／リニ迷覺一如ノコトハニ醉^エ

狂^ルセルハ、アルイハ(6ウ)／イフ、永劫ニ迷妄シテ

サラニ出離解脱ス／ヘカラス、迷悟一如ナリト、アル

イハイフ、生ナシ／、佛ナシ、カルカユヘニ迷悟不二

ナリ、アルイハイフ／、無覺ナリ、本覺ナルカユヘニ
 無迷ナリ、本／來清淨ナルカユヘニ、アルイハイフ、
 迷モ菩提ナリ／、覺モ菩提ナリ、アルイハイフ、作用
 ニ迷悟ノ（フオ）／アレトモ、體性ニ迷悟ナシ、カク
 ノコトクノ／類族ハ、世界ニ稻麻竹葦ナリ、シカアレ
 ト／モ、佛々祖々ノ家業ヲ正聞セル種草ニハ／アラサ
 ルナリ、

イマ僧ノ問處ヲ^{ソウ}搜尋^{サツル}シテ／佛ノ家業ヲ^{ハム}辨究^{ハンクウ}セムトスル
 ニ、大悟底／人却迷時如何ト問スレハ、大悟底人迷時
 ナ（フウ）／リトハトハス、ナルトハトワス、又大悟
 モアリ／トハトワス、ナシトトワス、却迷アリトハト
 ／ワス、ナシトハトワス、大悟底人却迷時如何／トフ
 ナリト動着セス、參究スヘシ、動著／スレハ柱杖三十
 ナリ、又大悟却迷トイフ／トキ、大悟ノ破滅シテ大迷

シバラク功夫スベシ、大悟底人ノ却迷ハ、不悟底人ト
 一等ナルベシヤ、大悟底人却迷ノ時^{セツ}節ト、大悟ヲ拈來
 シテ迷ヲ造作スルカ、他那裏ヨリ迷ヲ拈來シテ、大悟
 ヲ蓋覆シテ却迷スルカ、又大悟底人ハ、一人ニシテ大
 悟ヲヤブラズト云ヘドモ、サラニ却迷ヲ參ズルカ、又
 大悟底人ノ却迷ト云ハ、サラニ一枚ノ大悟ヲ拈來スル
 ヲ却迷トスルカト、カタガタ參究スベキナリ、又大悟

「ノ」ナシ（龍）
 トーハ（龍）（乾）（耕）（長）（璫）（多）
 （洞）

カーに（洞）
 裏ー裡（多）

「人」ナシ（耕）

枚ー枚（龍）（乾）（璫）

ハ出現スルトハ(8オ)ノイワサルナリ、コノ宗旨審
細ニスヘシ、シルヘシ、大悟タトヒ却迷ストイフト
モ、スナハチ大悟ハノVノ迷ナリ、天魔外道ノ認スル
大悟ナルヘカラス、却迷ナルヘカラス、大悟却迷ナ

リ、十聖三ノ賢ノ認スルニ、一二ニアラス、イハユ
ル千迷萬迷ノ大悟却迷ナリト參學スルナリ、大迷

ハV(8ウ)ノ千發萬發タトヒ大地ナリトモ、不悟

者難ノ得ナルヘシ、コノ道ハ、外道ノシルニアラス、

タ、ノ佛道ノミニアリ、シカアレハスナハチ、却迷ハ

ノ不悟ニアラス、大悟ハ盡地ナルヘシ、却迷トノ問ス

ル宗旨、コレヲ單傳セル問旨ハ、大悟ノ底人却迷悟如

何トイハムカコトシ、問頭カノ(9オ)クノコトク問

取ストイエトモ、問法ニモカクノコトク聽取スルナ

リ、聲現ノトキモ、カクノコトク現取スルナリ、循

也一・隻手ナリ、却迷也一・隻手ナルカ、イカヤウニテ
モ、大悟底人ノ却迷アリト聽取スルヲ、參來ノ究徹
ナリトシルベシ、却迷ヲ親會ナラシムル大悟アリト可
知ナリ、

一―一(耕)
ニテ―ニシテ(耕)

聽取―左註、キクナリ(増)
「徹」ナシ(乾)

親會―左註、ムカシヨリ(増)
※諸本「シルベキ」ニ作ル

行辨道ニモ、カク／ノコトク辨道スルナリ、

シカレハスナハチ、不／悟ニアラサレトモ大悟ス、不
迷ナリトイエト／モ大悟スルナリ、シルヘシ、マトヒ
ヲ旌擧シテ(9ウ)／サトリトスルニアラス、不悟ニ
アラサレトモ大悟／アリ、サトリヲ磨抹シテマトヒト
スルニアラス、大悟底人却迷如何ナリ、相即ニアラ
ス、無／罣礙ニアラサルナリ、

師イハク、破鏡不重／照、

コノ祇對^{シツイ}ヲキクニモ、佛々祖々ノ動業／ヲ用著スヘ
シ、イハユル大悟却迷ト問取ス(10オ)／ルニ、破鏡
不重照ト祇對アレハ、鏡ハ悟ナ／ルヘシ、不重照ハ却
迷シヌレハ、サラニ大悟ナ／ルヘカラス、マトヒナル
ヘシ、鏡ステニ破シテハ、照カ／サネテキタルヘカラ

シカアレバ、認賊爲子^{ニムソクイ}ヲ却迷トスルニアラズ、認子爲
賊ヲ却迷トスルニアラズ、大悟ハ認賊爲賊ナルベシ、
却迷ハ認子爲子ナリ、多處^{・シヨニソエ}添些子^{・シヤシ}ヲ大悟トス、少
處滅些子^{・ケンシヤス}、コレ却迷ナリ、シカアレバ、却迷者ヲ模著^{・モチャク}
シテ把定^{・ハナシヤウ}了ニ大悟底人ニ相見スベシ、而今ノ自己、コ
レ却迷ナルカ、不迷ナルカ、檢點^{・ケンテン}將來スベシ、コレヲ
參見佛祖トス、

師云、破鏡^{・キヤウ}不重照、落花難上樹、

コノ示衆ハ、破鏡ノ正當恁麼時ヲ道取スルナリ、シカ
アルヲ、未破鏡ノ時節ニ心ヲツカハシテ、シカモ破鏡
ノ詞^{・※}ヲ參學スルハ不是^{・セ}ナリ、ハイマノ華嚴道^{・クエコン}ノ破鏡不
重照落花難上樹ノ宗旨ハ、大悟底人不重照トイヒ、大
悟底人難上樹トイヒテ、大悟底人サラニ却迷セズト道

多處添些子―右註、タシヨテンシヤ
ス・左註、ヲ、キトコロニスコシキヲ
ソウ(瓊)

模―摸(龍)(乾)(耕)(瓊)・摸著―
右註、モシヤ・左註、サクリテ(瓊)

見―逢(龍)(乾)(耕)(長)(瓊)(多)
(洞)
「コレ」ナシ(龍)

檢―檢(龍)(瓊)(多)(洞)・檢點―
左註、カンカエシルス(瓊)

※諸本「コトハ」ニ作ル・言(多)

樹―枝(瓊)
「底」ナシ(瓊)

サルカコトシ、モシカクノ／コトク會取シ問取セム
ハ、佛法ニアラス、イ／ハユル破鏡不重照ト祇對セム
コトハ、如何(10ウ)／是佛ト問來セムニモ、恁麼祇
對スヘシ、如何／是祖師西來意ト問來セムニモ、祇對
ハ／恁麼ナリ、アルイハ水ハ冷暖ニアラス／、水ハ濕
乾ニアラストイハムカコトシ、又アル／イハ古鏡不重
照トイハムカコトシ、タ、不重／照トイフ照ナシトイ
ハス、照キタルトイハス(11オ)／、照サリヌトイハ
ス、シカアレハコノ祇對大悟／底人却迷アルヘシトイ
フニアラス、ナカルヘシト／イフニアラス、問不是ト
イフニアラサルナリ／、

落花難上樹トイフヲモ、枝ヲ辞シキタ／リ庭ニ落在シ
ヌレハ上樹シカタシトイエ／ルト會取シツヘシ、シカ
ニハアラサルナリ、タトヘハ(11ウ)／、飛花難上樹

取スルト、會取シツベシ、シカアレドモ恁麼ノ參學ニ
アラズ、人ノ思ガ如クナラバ、大悟底人家常如何トモ
問取スベシ、コレヲ答話セムニ、有却迷時トライハ
ム、而今ノ因縁、シカニハアラズ、大悟底人却迷時
如何ト人問取スルガユヘニ、正當却迷ヲ未審スルナ
リ、恁麼時節ノ道取現成ハ、破鏡不重照ナリ、落花
難上樹ナリ、

落花ノマサシク落花ナル時ハ、百尺ノ竿頭ニ昇セウシム督ノホルスル
トモ、猶是落花ナリ、破鏡ノ正當破鏡ナルユヘニ、ソ
コバクノ活計クワケイケン見成スレドモ、ヲナジクコレ不重照ノ照

※諸本「オモフ」ニ作ル
家常―左註、ヨノツネト云義也(長)
トモ―トラ(龍)・トラ(乾)(耕)(璫)
(洞)・ト(長)(多)
トラ―トラ(龍)・トウ(長)・ト(多)・
「トラ」ナシ(洞)

「カ」ナシ(耕)
「迷」ノ下「時」(耕)(長)(多)(璫)
(洞)
未審―左註、イフカシ(璫)

百尺―ハクセキ(璫)
頭―右註、テウ・左註、ハシ(璫)
昇督―左註、ノホリス・ム(龍)(長)
(璫)
※諸本「ナホコレ」ニ作ル、多本「ナ
ヲコノ」ニ作ル

見―現(乾)

トモ道得シ、開花難上枝／トモ道取シ、春花難上空ト
 モ道取セルコト／シ、コノ宗旨ヲ大悟々々却迷ニ辨究
 シ／モテユクヘシ、開花カナラスシモ上枝ニアラ／
 ス、春花カナラスシテ上山ニアラス、タ、コレ花／ノ
 時ノ花ナリ、花開ノ開ナリ、ヲノレヨリ(12オ)／化
 城スル滯累ナシ、ユヘニ偏界不曾藏／ナリ、他ニ染汚
 セラル、彩色ナシ、ユヘニ演出／大藏教ナリ、

龍牙山道和尚イハク、無中／得悟、

コノ道ヨクヨク七通八達アルヘシ、無／中ノ道取ス
 七八五十六

ル、ムシロココロナカラムヤ、宗旨／アルヘクハ、道
 聲現スヘシ、無中ハ無内ニア(12ウ)／ラス、無外ニ
 アラサルヘシ、中カナラスシモ當ナ／ラムヤ、中カナ

ナルベシ、破鏡ト道取シ、落花ト道取スル宗旨ヲ拈來
 シテ、大悟底人却迷時ノ時節ヲ參取スベキナリ、コレ
 ハ大悟ハ作佛ノ如シ、却迷ハ如衆生、還作衆生ト云
 ヒ、從本垂迹ト云如云不可學トナリ、彼ハ大覺ヲヤ
 ブリテ衆生トナルガ如ク云フ、是ハ大悟ヲヤブルトイ
 ハズ、大悟ウセヌト云ハズ、迷來ト云ハザルナリ、
 ハカレラニヒトシムベカラズ、マコトニ▽大悟無端ナ
 リ、却迷無端ナリ、大悟ヲ罣礙スル迷アラズ、大悟三
 枚ヲ拈來シテ、少迷半枚ヲツクルナリ、

※諸本「衆生ノコトシ」ニ作ル
 還作―右註、クワンサ・還作衆生―左
 註、カエテ衆生トナル(増)
 トラ―トヲ(龍)・ラー右註、ヲ歟(乾)・
 トウ(長)・ト(多)
 ※諸本「イフカコトク學スヘキニハア
 ラザルナリ」ニ作ル・耕本、「いふかこ
 としとなり」ニ作ル
 「ト」ナシ(龍)(乾)(耕)(長)(多)
 (増)(洞)(普)
 ルールル(龍)(乾)(耕)(多)(洞)
 ウセヌ―ヲセヌル(長)
 (洞)(普)
 ※諸本「キタル」ニ作ル
 却迷無端―左註、由來ナキ義ナリ(長)
 罣―罣(耕)・碍(多)(洞)
 「悟」ナシ(龍)
 枚・枚―枚(龍)(乾)●牧・枚(洞)

ラスシモ心ナラムヤ、三際斷／スヘシ、萬根枝スヘシ、コレヲ偏正ニ旌擧／スルコトナカレ、コレヲ邊表ニ錯認スルコトナ／カレ、未至ナルニヨリテモトイフトイハサル／、無遺ナルヲ無トイフトイハサレ、萬根ト(13オ)／モニ拔群スルコトアラハ、彼々ノ無スナハチ／待悟ナルヘシ、三際ヲナシク坐斷スルコトアラハ、比々ノ無マサニ得ナルヘシ、有時トマタ／ス、有形トマタス、有緣トイハス、有地ト／イハス、有始トイハス、有來トイハス、有變／有化トイハス、有成有見トイハス、タ、(13ウ)／無中得悟トイエルカ、ユヘニ仙家步曆ハ俗／塵ニ混セス、佛道ノ得悟、コレ無中ナルノミ／ナリ、

シカアレハスナハチ、二祖禮拜依位而／立スルニ、傳法藏ス悟ナシトセス、阿難二祖／ノタメニ大悟セル、

雪山ノ大悟セサルニアラス／、木石ノ大悟セサルニア
ラス、大悟ノ三拜(14オ)／アリ、大悟得髓アルノミ
ナリ、頭々知了々／知、タレカコレヲ盡地ニアラスト
イハム、三祖四／祖五祖等ミナカクノコトシ、大悟ア
ルト／ハ人道アリ、天道アルトキハ大悟アル／ノミ
ナリ、見明星悟道ハ、見明星道得ナリ／、

青原南嶽ノ六祖ニ正傳スル、佛々祖々ノ(14ウ)／大
悟ヲ正傳セルノミナリ、青原ハ聖諦不／爲ノ階級ノミ
ニシテ、サラニ身前後ノ大／悟ナシ、南岳説似一物
即不中ノ會得／ノミニシテ、大悟不悟ノ染汚ニカ、ハ
レス、モシ／大悟ヲ旌擧スルコト道得現前スヘシ、會
／得現前スヘシ、コレヲ不悟ノ祖佛トイフヘシ(15
オ)／、大悟ノ道得トナラフヘシ、

シカアレハスナハチ／大悟不悟生悟等ハ身前ニモア

リ、身／後ニモアリ、同修身ニモアリ、生前ニモアリ、／生後ニモアリ、同修生ニモアリ、父母未／生以前ニモアリ、偏界不曾藏ニモア／リ、他人ノワカタメニ大悟スルアリ、ワカ他(15ウ)／人ノタメニ大悟スルナリ、他人ノ他人ノタメニ／大悟スルトイフ、サラニコレ自己ノ自己ノタ／メニ大悟スルナルナラム、

雪山ノ雪山ノタメニ大悟／スルアラス、木石ノ木石ノタメニ大悟スルアラム、シカ／アレハ、諸佛ノ大悟ハ、衆生ノタメニ大悟ス／ルカユヘニ、衆生ノ大悟ナルヘシ、衆生ノ大悟(16オ)／ハ、諸佛ノ大悟ヲ大悟スヘシ、前後トイフ／コトナカレ、イマノ大悟ハヲノレニアラス、他／ニアラス、住シテ心識ニカ、ハレス、サリテ境／界ニヘタテラル、アラス、モシト、マリテ／自身ニ處在せハ、イカテカ保任せム、サリ／テ

ハココヲモテ、雪山ノ、雪山ノ爲ニ大悟スル有リ、木石ハ木石ヲカリテ大悟ス、諸佛ノ大悟ハ衆生ノ爲ニ大悟ス、衆生ノ大悟ハ、諸佛ノ大悟ヲ大悟トス、前後ニカカハレザルベシ、而今ノ大悟ハ、自己ニアラズ、他己ニアラズ、來ニアラザレドモ、シム填溝塞壑ナリサルニ非ザレドモ、セツ切忌キスイ隨タミヤク他ミナシ覺フサカルナリ、何トシテカ恁モトム麼ナル、イハユル隨他去ナリ、

モテモツテ(増)
雪山―右註、大涅槃ノ義ナリ(長)

木石―右註、身心如來石ナリ(長)・
右註、モクシヤク(増)

「ト」ナシ(龍)(乾)(耕)(長)(増)
(多)(洞)

他己―左註、ヒトノヲノレ(増)

※諸本「キタル」ニ作ル

隨他覺―左註、ヒトニシタカテモトム

ルコト(増)

※「ナニ」ニ作ル

恁麼―右註、タ、ニ(長)

他境ニアラス、又イカニシテカ住持せ(16ウ)／ム、

キタルニアラサレトモ、チムコウ墳溝塞壑ナリ／、サルニアラ

サレトモ切忌隨它テタニコヲ覓ミ現前／、

大宗國諸山(マニ)ニ住せリ杜撰トゼヤカラ／、ヨロク佛々祖々家

業ヲ正傳せサル、トモ／ニヲモハク、曰子クノ手マリニ

ヨリ、シカノコト／ク大悟モアラムスルトオモヒテ、

イタ(17オ)／ツラニ死漢ヲ學シテ遠來ノ賓悟ヲ／攝

待せムトス、脱落ナル大悟ノ、イマ不失／ナルト保任

不著ナリ、未逢道得ナルカユ／ヘナリ、イマハカクノ

コトクノ飯袋子ノミ／ナリ、サラニ一箇半箇ノ粥飯ナ

シ、又／イタツラニ枯木死灰ノ馬倍トモヲモフ、佛(17ウ)

／祖ノ怨家ナリ、イクハカカ祖師ノ大道ヲ／廢せシ

ムル、イタツラニ貪名愛利ノヤカラ、／大利テウノ主トナ

レルニヨリテナリ、雲水ノ道ヲ／フサク、大罪トイヒ

ヌヘシ、

雲門示衆云、／擧スルニ三種ノ人アリ、因説得悟、一人ハ／因喚得^{トユツ}テ悟、一人ハ見擧便回去^{トユツ}爾道(18オ)／、便回去ノ意作麼生、師云、也好與^キ三ノ十棒ナリ、イハユル説ニヨリテ得悟アリト／イフハ、參究スヘー審細アリ、ソレ説ト／イフ道理、イカニアルヘーソ、シハラク説取／行不得底ノ説ヲ學スヘシ、行取説不／得底ノ行ヲ學スヘシ、行取スルトコロニ説(18カ)／不得底ノ道理ナリ、シカレハソノ説、タトヒ／眼耳親切ニアラス、ヲヨヒ身心ノ親切ニア／ラストイフトモ、因説ハカナラス悟ナルヘー／ナリ、因説ノカナラス悟ナルカユヘニ、得悟ノナルナリ、説ノ因ステニ現成スルニハ、前後ノ際ヲ參究スル、ハカ／ナラス因ヲモチキルベシ(19オ)／、説ヲモチキルヘシ、悟這

邊モ恁麼ナリ、悟／那邊モ恁麼ナリ、悟向上モ恁麼ナ
リ、／因無得悟トイフ、悟カナラス喚ニヨルナ／リ、
喚ソレ悟ヲツカウカ、ユヘニコノ喚、カナラ／スシモ
主人公ニモヲヨホサル、ニアラサルナリ、／コノ喚ハ
シメアレハ、大悟始アリ、大悟始アレ(19ウ)／ハ、
自己始アリ、自己始^{マデ}アリ、自己始アラハ、自己／ヲハ
リアリ、大悟ヲハリアリ、因ヲハリ／アルナリ、ヲハ
リハ平常ニナラウヘシ、イハユ／ル這頭ヲ喚來セルナ
リ、ハシメハ吾常ニ／ナラフ、這頭ヲ喚來スルナリ、
大悟イマタ／人ヲヤフラス、人イマタ大悟ヲ染汚スル
(20オ)／コトナシ、大悟サラニ大悟ヲ罣礙スルコト
／ナイモノナリ、

黃龍南禪師ノ云、花／綻柳開鳥語^{ナイデ}官^官タリ、水ノ
聲ノ／潺々タリ、是非名利都不相開ナリ／、
鳥鳴^{コエ}

シルヘシ、古來佛祖ハ是非名利ナケステ／キタリ、カ
ハレストイフコトヲ、

又師弟ノ(20ウ)／住院ヲイマシムルニ云、夫住持
者、於道／德具因緣、内明佛法機、外赴郡／生望、

若不然者、保持至理消息機緣、竹戸ノ第堂靜坐、塵塚

ノ外／松床木枕困眠風月之中、以煙霞水／石暢其

情、去名利是非忌其(21オ)／念、未能如是宜在知非、

シカアレハ、／シリヌ、是非名利ハ、先來ヨリ大聖ト

モニ／イマシメキタル處ナリ、シカルニ、(マ)大宗国／、

イマ名前ノ臭皮袋ヲクサイフクロ、雲水ノ／主人トナレルユ

ヘニ、好聲ヲキク人スク／ナシトイハムヤ、赤人ヲミ

ル人ヲ、カラムヤ(21ウ)／、ユヘニ大悟ノ名、スヘ

テキカス、佛祖ノ道、ステ／ニ廢セルカコトシ、佛祖

ノイカナルヘキト、シレル／モノマレナリ、アハレム

ヘシ、大悟ハ小量トシラ／ス、大悟ハタイリヤウトシ
ラス、大悟ノ大悟ヲ／ヤフル、長短ニクラシ、大悟ノ
大悟ヲ見成スル／、ハ七八∨ニ未道得ナリ、大悟ヨリ大
悟ノ生長スル(22オ)／トシラス、大道ニ大悟ヲ負載セ
ルト学セ／サルトモカラ、ヲ、ク名字ヲ佛祖ノ家門／
ニカケタル運窮ナリ、

舒州投子山ノ／義青^{シム}禪師、曾テ謁^{カッス}浮山ノ圓鑒禪／師^{ヤムス}
遠和^{マニ}尚、稍^{ヤ、ニ}經三載、遠一日問師云、外／道問佛^ニ不
問有言^ハ、不問無言^ハ、世尊默(22ウ)／スハ ∨如何、
師擬スルニ開口、遠以手掩^{ヲ、ウ}師口^ニ、師於此大悟シテ、
遂ニ作禮^ヲ、遠云、妙／悟ス玄機^ヲ耶、師云、設有^{ヒトモ}妙悟、
也須^{ヘシ}吐^ッ／却^ル、

師ノ悟則、アキラメ參究スヘシ、口ヲオ、／ハレテ大
悟スルナリ、ニアラス、タトヒ日コロヨリ／大悟ナリ

トイヘトモ、大悟スルナリ、タトヒ向(23オ)／來ヨ
リ大悟ナシトイフトモ、大悟スルナリ／、大悟イマタ
他人ノ手裏ニアリトモ、大悟スル／ナリ、大悟イマタ
毫忽地アラハレストモ、／大々悟スルナリ、大悟タト
ヒ盡大地也トモ／、大悟スルナリ、タトヒ盡大道ナ
リトモ、大悟／スルナリ、大悟タトヒ盡大悟ナリト
モ、大悟スル(23ウ)／ナリ、大悟タトヒ盡自己ナリ
トモ、大悟スルナリ／、大悟タトヒ不悟ナリ、大悟ス
ルナリ、
シカアレハ／、今師ノ道取スル設有妙悟也須坐却ノ
道、イカニ道取スルトカセム、用著スルカ、用／著セ
サルカ、大悟ハ吐却ノ葛藤トセ^ヒルノミ／ニマカスヘ
シ、吐却ハ大悟ノ葛藤トセル^トノミ(24オ)／ナリ、向
上道ハ即未名大悟也、

先師ヨノ／ツ子ニ衆ニシメシテイハク、參禪者心身／

脱落也、不是待悟爲則、コノ道得ハ、上／堂ノ時ハ法

堂ノ上ニシテシメス、十方ノ／雲水アツマリキク、小

參ノ時ハ、霞堂／裏ニシテ道ス、諸方衲子ミナキク(24

ウ)／、トハ／＼ナリ、夜間ハ雲堂裏ニシテ拳頭ト／同

時ニ霹靂^{ヘレ}ス、睡者モ聞、不睡者モ聞／、夜裏モ道ス、日

裏モ道ス、シカアレトモ／、知音マレナリ、爲問スク

ナシ、イハユル參禪／ハ／＼トイフハ、佛々祖道ナ

リ、參禪ノ言ハ／＼、ハ／＼者ナルカユヘニ、恁麼^モ

イフナリ(25オ)／、

心身脱落ハ、脱落身心ナリ、脱落ノ脱落／シキタレル

カ、ユエニ身心^{生死身失ス}脱落ナリ、コレ大／小塵^{マヤ}俠ノ邊際ニア

ラス、コ、ヲモテ不是待／悟爲則ナリ、

待悟トイフハ、大悟ヲ所期／トシテ學道スルコトナカ

レ、大悟ヲ所期／トスレハ、所期ノ悟ト親切ナラサル
ノミニア(25ウ)／ラス、大悟イクハカカ所期ニワツ
ラハム、學／道ステニ大悟ニイタラムトキ、大悟ハシ
メニ／カ、ハレ、學道ツキニ大悟ニ際斷セラレヌルカ
／コトシ、モシ待悟爲則せハ、ステニ大悟現成／セム
ヨリノチハ、學道スヘカラスサルカ、恁麼／ノ見解
ハ、佛道ノ行履ナリ、恁麼ノ行履(26オ)／ハ、佛頭
ノ關捩、諸佛ノ大道ニアラス、古佛ノ授記シキタレ
ルトコロ、夢ナリ未見在者／ナルヘシ、

大悟ハ、生ト同生スルナリ、大悟ハ、死ト／同死スル
ナリ、諸佛ト同現成シ、祖師ト同西／來スルナリ、柏
樹ト同成佛シ、虚空ト同／參落地シ、牆壁ト同心ナ
リ、百草ト同根(26ウ)／ナリト參學スヘキナリ、シルヘ
シ、大悟ステニ／現成スルニ、シルヘシ、大悟ヲ罣礙

せサル道理ナリ／、

シカルヲイマ、人ヲホク大悟ヲ舉シテ、學道／ハ究竟ノ寶所ト錯認せサル、アハレムヘシ、イ／クハクカ究竟ノ寶所ハ大悟ノミニアラサルコトヲ、蹉過スル捨父逃逝テウナルヘシ、大悟ヲ（27オ）／所期トシテ、コレヨリノチハト度ワタナカラム／トヲモフハ、經師論師等ノ錯解ナリ、モシ／大悟ヲ究竟トせハ、草モ究竟所ナル／ヘシ、木モ究竟所ナルヘシ、承言モ究竟所／ナルヘシ、餘宗モ究竟所ナルヘキナリ、シカ／アレハ、大悟ヲ究竟所ナリト認スルコトナ（27ウ）／カレ、モシカクノコトクアラハ、佛法イカテカ今／日ニイタラム、佛法ノ今日到來スルコトハ、大悟ヲ／究竟トセス、待悟ヲ爲則トせサルニヨリテ／ナリ、シカモカクノコトクアリトイフトモ、コノ／大悟、サラニ佛量ヲ拈來シ

テ度量スルニハ／、エサルナリ、法量ヲ拈來シテ度量

スルニハ(28オ)／エサルナリ、臨濟等ワツカニ盡地

ヲミルニ、不悟／ハ　▽者不可得ナルヲミルトイエト

モ、大悟ノ／ハ盡▽地ノミニアラサル道理、イマタ道

得せ／サル、ステニ道得せスハ、タレカ爲聞ヲユルサ

／ム、盡大地不見一箇不悟者ノ言ヲ悟也／、不可得ナ

ルヘシ、不悟也未行人得ナルヘシ、コレ(28ウ)／脱

落大悟ノ道理、イマタ道得せサルニヨ／リテナリ、ヒ

サシク大悟盡地ナル行履ヲ／ハ　▽行履セル一隅ナ

リ、ノチニ半臨濟アリ／ハテ▽ソノ道得ヲ代道せムコ

トラユルスヘシ／、シカレハスナハチ、先師道ノ脱落

身心不是／待悟ニ爲則ヲ參學スヘシ、大悟タトヒ明頭

(29オ)／來ストモ、サラニ明頭打ナルヘシ、大悟タ

／トヒ暗頭來ストモ、サラニ暗頭打ナルヘシ／、

京兆米胡和尚令僧問仰山、今時ノ人還／假悟否、仰山云、悟ハ即不無爭奈落／第二頭何、僧廻舉似米胡、深肯之、

今／時人者三世諸佛ナリ、ユヘニ今時人コレ今時（29ウ）／人也、這頭ニ現成シ、那頭ニ現成スル、トモニ今／時ノ人也、

假悟不トハ、サトリヲモチキルヤト／イフナリ、シカノコトクイフ、宗旨カクレサルア／レトモ、ハ經論ノ學者キ、カタシト、イハユル今時／人ハ、今ハ作麼生ナルソ、時ハ作麼生ナルソ／、人ハ作麼生ナルソ、著眼着スヘシ、甚處／（30才）人ナルソ、那裏去ナルソ、タトヒ頭正ナリトモ／、カナラス尾正ナルヘカラス／、一條鐵ナルヘカラス／、カクノコトク聞著

京兆米胡和尚、令僧問仰山、今時人還假悟否、仰山云、悟即不無、爭奈落第二頭何、僧廻舉似米胡、胡深肯之、

イハクノ今時ハ人人ノ而今ナリ、令我念過去未來現在イク千萬ナリトモ今時ナリ、而今ナリ、人ノ分上ハ、カナラズ今時ナリ、アルイハ眼睛ヲ今時トセルアリ、アルイハ鼻孔ヲ今時トセルアリ、

還假悟否、コノ道ヲシヅカニ參究シテ、胸襟ニモ換却スベシ、頂顙ニモ換却スベシ、近日大宋国禿子等イハク、悟道是本期、ハカクノゴトクイヒテイタヅラニ待悟ス、シカアレドモ、佛祖ノ光明ニテラサレザルガゴトシ、タダ眞善知識ニ參取スベキヲ、懶墮ニシテ蹉過スルナリ、ハ古佛ノ出世ニモ度脱セザリヌベシ、

廻一廻（多）（洞）

「ノ」ナシ（龍）（乾）（多）
「念」ナシ（乾）

而今一右註、イマ（龍）
人一人（多）（洞）

睛一睛（龍）

參究一左註、ナライキハメテ（瑠）
胸襟一左註、コノ義ナリ（瑠）

頂顙一右註、チンニン（瑠）
禿子一左註「老者ヲ云」（龍）・禿子等
一右註、トクシラ・左註、カミノカフ
ロナルナリ（瑠）

イハク一云（瑠）
期一右註、コ（瑠）

サル一ツル（瑠）

懶墮一右註、ランタ（長）（瑠）・左
註・モノウクシテ（瑠）・モノウシ
（長）

スヘシ、傍様擬著スヘー／ニニタレトモ、意頭ノ知少
フタアルヘー

ナルニ蹉過セシムル／ナリ、

還假悟否ハ、サトリヲカルヤイナヤ／トナリ、シカア
レハ、サトリ在ニアラス、悟ナ(30ウ)／キニアラ
ス、サトリハ本末是ニアラス、サトリ／一番新ニアラ
ス、假ヘカラス、サトルニアラス、カ／ルヘキニアラ
ス、サトリハ佛ニアラス、サトリハ吾／ニアラサル宗
旨アリ、

仰山イハク、悟即不／無、爭奈落第二頭何、

ソノ宗旨ハ、サトリ／ハ不無ナリトハ、サトリハ無ニ

今ノ還假悟否ノ道取ハ、サトリナシトイハズ、アリト
云ハズ、來ルトイハズ、カルヤ否トイフ、今時人ノ悟
ハ、イカニシテサトレルゾト道取セムガ如シ、ハタト
ヘバ、サトリヲ、ウトイハバ、ヒゴロハナカリツルカ
トオボユ、サトリキタレリトイハバ、ヒゴロハソノサ
トリ、イヅレノトコロニアリケルゾトオボユ、サトリ
ニナレリトイハバ、サトリ、ハジメアリトオボユ、カ
クノゴトクイハズ、カクノゴトクナラズトイヘドモ、
サトリノアリヤウヲイフトキニ、サトリヲカルヤトハ
イフナリ、

ハシカアルヲ、サトリト云ニハイハル、シカアレド

還假―右註、ワンケ(多)

※諸本「イナヤ」ニ作ル
※諸本「サトリ」ニ作ル

※多本「如此ナラス如此イワストイヘ
トモ」ニ作ル

①※増本、上欄外ニ「在本云、サトリ
トイウトイウハ、第二頭ヘヲツルソ」
ト記ス●②※長本・洞本「イハルシカ
アレトモ」ナシ・長本ニハ脚註ニ「已
上十字異本ニ無シ」ト註ス。然シテ本
文ハ増本ノ欄外註記ノ文ニ順ゼリ●
「ニ」ナシ(洞)●「ハイハル」ナシ
(多)
イハル―イハユル(増)●「ア」ナシ
(増)

アラス、シカア(31オ)／レトモ第二頭ニヲツルナ
 リ、サトリハ有ニアラス／、シカアレトモ第二頭ニヲ
 ツルチサルコトキナリ／、第二頭ニヲツルコトニテア
 レハ、サトラサラムト／ニハアラサルナリ、シカア
 レハ、サトリ第二頭ニヲ／チスト學スヘカラス、サト
 ルトイヘトモ、カナラス／ヲツルナリ、第二頭ニヲツ
 ルトイエトモ、カナラス(31ウ)／サトルナリ、モシ
 シカアレハ、スナハチ第二頭ヨ／リ向上ハ、コレ第一
 頭ナリトニアラス、第三頭／ノアルニアラサルナリ、

コノサトリハ未落ノトキ／ニモ第二頭ニアリ、當悟ニ
 モ第二頭ニ落在セ／リ、ノチモ第二頭ニアルヘキナ
 リ、ソノ鋒鎧カ／クル、コトナシ、逢人スレトモ顛倒

モ、第二頭ヘヲツルヲバイカニスベキト云ヒツレバ、
 第二頭モサトリナリト云ナリ、第二頭ト云ハ、サトリ
 ニナリヌルトイヒヤ、サトリヲウトイヒヤ、サトリ來
 ゴトイハムガ如シ、ナリヌト云モ、來リト云モ、悟ナ
 リト云ナリ、ハシカアレバ、第二頭ニオツルコトヲイ
 タミナガラ、第二頭ヲナカラシムルガゴトシ、サトリ
 ノナレラン第二頭ハ、マタ、マコトノ第二頭ナリトモ
 オボユ、シカアレバ、タトヒ第二頭ナリトモ、タトヒ
 百千頭ナリトモ、サトリナルベシ、第二頭アレバ、コ
 レヨリカミニ第一頭ノアルヲノコセルニハアラヌナ
 リ、

ヘーニ(溜)(多)
 ヲハース(龍)(乾)(洞)・時(耕)・
 ノーハライニ(多)・「ハ」ナシ(長)
 (溜)
 「ヤ・ヤ」ナシ(溜)(多)
 來ソーキタレリ(龍)(乾)(耕)(長)
 (溜)(多)(洞)
 來リーキタレリ(龍)(乾)(耕)(長)
 (溜)(洞)(多)
 ※諸本「サトリ」ニ作ル

「モ」ナシ(多)

「頭」ナシ(乾)

一一二(溜)

セス、

シカルヲ (32オ) /、大悟ハ起首アレトモ、未上サラニ

アラサルト / ミタリカハシクスレハ、佛道ニアラス、

大悟ハ向 / 上アリ、大悟ハ未上ニモアリ、

タトヘハ着衣トヒトシク、タトヘハ喫飯トヒトシク、

タトヘハ磨ハ / ^{カウラ} 甄ノコトシ、タトヘハ磨鏡ノコ

トシ、作鏡モ大悟 / ニアリ、作甄大悟ニアリ、鼻孔ノ

上脣ニア (32ウ) / ルコトヲ參究スヘキナリ、イツレ

ノトコロカコレ上 / 脣、イハユル鼻孔ノ所在ナリ、シ

カアレハスナハチ /、大悟タトヒ大道ヲ悟盡ストモ、

ナヲコレ暫時ノ / 岐^{マヤ}倆ナリ、

大悟サラニ大悟スル、ユヘニ大悟頭白 / アリ、大悟頭

黒アリ (33オ) /、

タトヘバ、昨日ノ我ヲ我トスレドモ、昨日ハ今日ヲ第

二人ト云ハムガ如シ、而今ノサトリ昨日ニアラズトイ

ハズ、今ハジメタルニアラズ、如此[※]參取スルナリ、シ

カアレバ、

大悟頭^{コク}黒ナリ、大悟頭白ナリ、

レール (増)

※諸本「カクノコトク」ニ作ル

△正法眼藏第十

爾時仁治三年壬寅春正月廿八日

住觀音導利與聖寶林寺示衆

而今寛元二年甲辰春正月二十七日

錫駐越宇吉峯古寺而書示於人天大衆▽

「藏」ノ下「大悟」ニ作ル（耕）（瑠）（洞）

年一季（長）

「於」ナシ（多）

※耕本「古寺而書示於人天大衆」ヲ

「精舍堂奥次書寫之懷弊」ニ作ル●

「古」ナシ（瑠）

※長本・瑠本・多本・洞本、次ノ奥書アリ

「同二年甲辰春三月二十日侍越宇

吉峯精舍堂奥次書寫之懷弊（癸・洞本）」